

## 第2回四日市市子ども・子育て会議 議事概要

日時：令和4年1月13日（木）

午後3時30分～午後5時

場所：四日市商工会議所3階 中会議室

### ①保育の新たな受入れ枠の確保について

事務局より資料1について説明。

#### ○質疑応答

##### 【会長】

資料1について、大きく分けると1つ目に社会情勢等を踏まえた私立保育園の新設、2つ目に定員の設定、そしてこども園化に向けた編成の3点を説明いただいた。

まず、この資料1でご質問、ご意見等はいかがか。

##### 【委員】

新設の保育園ができることに対し、四日市私立保育連盟の中では反対する意見があった。これまでも発言してきたが、保育士不足が深刻な状況で、170名定員の保育園ができると、その地域の保育園の保育士不足が生じ、ひいては園運営に深い影響を及ぼすのではないかという懸念がある。もう1つは、100名定員の私立保育園が閉園することが新園をつくる理由の1つならば、新園も100名定員でよいのではないか。

四日市私立保育連盟は、新設が決まってから今回の経緯を聞いており、この会議でも何も知らされていなかったことをとても残念に思っている。

四日市市の子どもたちの保育を適切に行い、充実させるためには、今後は、市の動向を速やかに周知していただくとともに、保育に関する課題や問題の解決に向けては、現場の状況をより把握していただくためにも、さらに協議する必要性を強く感じている。

##### 【事務局】

新設に関するご意見を頂戴した。今回の内容を報告させていただくにあたっては、四日市私立保育連盟とも協議をさせていただいているところ。

そうした中、本市の就学前教育・保育を取り巻く、保育ニーズを含めた現状と背景等を踏まえ、年度途中の待機児童や育休退園の解消、きょうだいで同じ園の利

用といった改善を含め、170名定員で設置させていただきたいと考えている。

併せて、例として来年度の市の取り組みを記載しているが、保育士不足に対する施策も充実しながら、就学前の教育・保育の働き場として本市が選んでいただけるよう努めてまいりたい。

**【委員】**

保育士確保に向けた取り組みの、令和5年度新規採用職員募集時期の前倒しについて、具体的な時期はいつ頃を考えているのか。

**【事務局】**

今年度も含め、従来は9月に試験を実施していたが、これを3か月前倒して6月に試験を実施していく。また、これに伴い結果発表の時期も早くなる。

**【委員】**

保育士不足について、どれ程の人数が不足しているというのは掴んでいるか。  
また、この方策を通してどの程度保育士確保を見込んでいるか教えていただきたい。

**【事務局】**

まず、今後の保育提供枠について、資料4頁「3.市の考え方」の必要施設規模のように北部で約210人などの提供枠確保を考えている。この必要枠に応じた保育士確保はもちろんのこと、各園でも保育士が不足していると聞いているので、その辺りも含めて、今後の保育士拡充に取り組んでまいりたい。

**【委員】**

保育士不足の現状は、現場の方が言われるのでそうなのだろう。見込みが分からないまま進んでいくのでは不安があるのだと思うが、今の答えでは分からなかった。

**【事務局】**

例えば少し前の調査で、1年目の職員も含め早期に辞められる方が、全国平均で約17%という資料を拝見したことがある。この数をそのまま本市に当てはめることはできないが、各園で採用したい人数に対して、そのようには集まらないといった報告は受けている。

**【会長】**

この辺りは流動的で、数値で示すのは難しいだろう。新たに採用になっても辞め

られる方もおり、様々な状況の変化の中で保育士を補充していく、充足していくところの難しさが、現状としてあることも事実であろう。

対策の中で、募集時期を早めると言われていたが、この具体的なメリットはどういったことなのか。

#### 【事務局】

早める過程において、四日市私立保育連盟から、時期を早めてもらいたいという要望をいただいた。保育士を希望する方の一部で、公立試験の動向を踏まえて判断することもあるのだろうと理解している。

また、本市に限らず、ほかの市町でも職員の採用時期を早めていることなども踏まえ、総合的に判断した。

#### 【会長】

保育者を養成する側としても、今言われたことをすごく感じていた。ある市では、4年生の12月ぐらいまで試験をやっていたところもある。就職活動が解禁され、3年生の終わり頃から周りが内定を得ていくのを見ると、学生は「自分はどうなるんだ」と浮足立ってしまう。そうなってきたときに、他の業種に早くに決まったところで就職してしまって、保育士はやらないという学生もいたので、時期を早めることは保育者数を確保する上ではそのとおりだと思う。

#### 【委員】

今、保育園の話が主に出ているが、これは私立幼稚園でも大きな問題である。以前にもお話ししたが、私立幼稚園は満3歳児をお預かりしており、2歳児の預かり枠にまだ余裕がある。もしそこで要請をしていただければ、新しい施設をつくられるというお話についても、既存施設を利用してできなかったのかなと思う。

また、保育士不足、イコール、幼稚園教諭不足も同じことが言え、私立幼稚園もすごく厳しい状況になっている。やはり、それぞれが建学の精神の下にやっているため、辞めていかれる方もあり、幼稚園教諭が不足しているのは、間違いないことである。四日市私立保育連盟の話を聞かせていただいたが、同様に私立幼稚園も厳しいということを理解いただきたい。

質問だが、職員については今年何名を募集されるのか。

#### 【事務局】

令和5年度の募集人数は未定である。令和4年度採用の本市保育教育職の実績としては、20名程度の募集に対し17名決定させていただいた。

## 【会長】

幼稚園についてももう少し考えていただきたいという要望があったかと思うので、それも含めて今後考えていただければと思う。

資料1について、第2期子ども・子育て支援事業計画の見直しについては、第1期でもこのように進めてきており、認めていただきたいという思いがある。最初にアンケート調査を行った状況と5年間のスパンの中では、人口動態やそれ以外の要素も随分変わるので、見直し期間を設けている。

次に、令和4年度の利用定員については、実情を含めて神前こども園の開園を目指しているという説明だった。

そして、公立幼稚園と保育園によるこども園化について、園児数が15名を下回っている4つの施設については、このようにこども園化を目指すという説明であった。

こども園については、ほかの市町を見ても、少しずつだが増えてきている。その理由はそれぞれ違うにしても、保育園、幼稚園を運営していくためにどうしても必要なんだということも挙げられると思うし、保育園機能、幼稚園機能を1つにすると保護者の方たちも利用しやすいとか、子どもたちにとってもいいだろうといったようなメリットが、少しずつ分かってきてもらえている。そうしたところから言うと、こども園化というのは、四日市市だけでなく、ほかでも見られる傾向であり、こういった方向で市としては進めていきたいということだろう。

この後の議事でも触れるが、保育士の人材確保についても、なかなか根本的に難しい問題も抱えながら、市の方向性が示された。

それから、私立保育園や私立幼稚園から要望が出ており、この場ではこれ以上進めることは難しいだろうと思う。市と関係機関とで適切な話し合いを進めていただいて、ニーズをできるだけ計画の中で検討していただきたい。

それでは、議事(2)子育て支援の新たな取り組みについて、説明いただきたい。

## ②子育て支援の新たな取り組みについて

事務局より資料2について説明。

## 【会長】

子育て支援に関しての新たな取り組みについて6つ挙げている。ご質問・ご感想はいかがか。

## 【委員】

保育士等人材確保の、保育士・保育教諭への奨励金について、具体的にはどのような制度なのか、四日市市にとってどのようなよいところがあるのか教えていただき

たい。

**【事務局】**

奨励金については、例えば、新規採用の保育士の方に、一定期間経過した時点で奨励金といった形での給付を考えている。

**【会長】**

一定期間を過ぎた保育士という条件があり、貸与ではなくて、給付であると。

**【委員】**

保育士等の中に、幼稚園教諭は含まれないのか。

**【事務局】**

現在の計画では、保育士と保育教諭での枠組みである。

**【委員】**

今は幼稚園でも保育園でも両方の免許を持っていると思うので、今後の要望として、その辺りの平等化を図っていただきたい。一定の期間を過ぎたら、新規採用者の保育士には給付があつて、私立幼稚園や普通の幼稚園の先生たちにはそれがないとなれば、幼稚園の人材確保にとっては打撃だなど思う。

**【委員】**

奨励金について、令和5年度から実施に入ることだが、令和5年度に新規採用された保育士が、3年なりしたら、お金を頂戴するわけだが、それが「多様なニーズに応じた保育サービスの充実」ということになるのだろうか。人材の食い止めとはっきり書いたほうがよく分かる気もする。

**【事務局】**

資料に記載した基本目標1、基本施策3、推進施策とは、第2期子ども・子育て支援事業計画の施策体系に対応しており、今回の事業については、その中の「多様なニーズに応じた保育サービスの充実」に当てさせていただいている。

**【委員】**

それと、一定期間勤めた段階で給付をいただいて、辞めるということは可能か。個人的な事情もあるだろうが、税金をそこへ投入し、ある程度の年が来て辞めてしまうなら、もっと長いスパンで、例えば2番の幼児教育センターといったところ

で、やりがい感やこの仕事をやっていくんだというふうにしてもらわないといけない。小学校でもそうだが、こんなはずじゃなかった、辞めたいと言われると本当に困る。ご褒美ももらったことだし、さらにスキルアップをしたいとか、こんなやりがいを新たに見つけないといった方向に持っていかなければいけない。高い目標、志を持って就職するのだと思うし、それが病気や結婚、他府県への移動であれば仕方ないが、「ご褒美をもらいました、でも辞めました」というときに、どうやって応えていけばいいのかなと思った。

#### 【事務局】

貴重なご意見を頂戴した。確かに、なりたい職業として保育士、保育教育職に就いていただき、その次は、やはり長く勤めていただきたい。子どもの笑顔を活力にして長く子どもたちと関わっていただきたいと、私たちも考えており、ご意見で頂戴した人材確保・育成については、これはもうトータルの問題で、総合的な施策から成り立ってくるものだと再認識させていただいた。

その中で、他市町の施策も十分情報収集しながら、ご指摘の点が改善され、人材の確保につながるよう取り組んでまいりたい。

#### 【会長】

確かに、税金ということから考えると、そういう側面はなくはないが、やはり個人の考えもあるので、この辺りは総合的に考えていく必要があるだろう。

やはり福祉に関する社会的な認知をもっと上げていかないと、本人たちの満足度や貢献度も、それが認識されないままになってしまうということも含めて考えていく必要があると思う。

それでは、議事（3）子どもの生活実態調査 集計結果〔速報版〕について、これは速報値なので単純集計であり、必要なところでクロス集計して精度を上げていく必要があると思う。調査に当たっては、いじめの調査もそうだが、なかなか言葉が非常に難しい。貧困を前面に出してしまうと、また回答に影響してくるということで、今回は、子どもの生活実態調査という形で進められた。

それでは資料3について説明いただきたい。

### ③子どもの生活実態調査 集計結果〔速報版〕について

事務局より資料3について説明。

#### 【会長】

四日市市の方だけでなく、ほかの地域の方たちも、恐らくこの結果を知りたがっているのではないかと思っている。子どもを含めた貧困の問題は非常に大きな問題

で、日本は比較的豊かだなというような印象はあるが、現実にはそうでない部分もある中で、これから支援をどうしていくかというところに生かしていくためにこの調査は非常に必要なのだと思う。

資料3について、ご感想・ご要望はいかがか。

#### 【委員】

この結果をざっと見た中で、市としてこれは課題になるというふうに認識された項目はあるか。

#### 【事務局】

課題に関する分析はこれからだが、集計結果をみて意外だったこととして、小学生の新型コロナの影響において「楽しめない時間が減った」という回答が多いということがあった。逆に、「楽しい時間が増えた」ということでもあり、これには一人で過ごせてゲームする時間が増えたとか、インターネットをする時間が増えたとか、様々な原因が考えられるし、並行して、不安に思う時間が増えたという子どももいるため、影響は良いことばかりでないと理解しているが、やはり子どもにとって様々な生活の変化が起こっているということなのだろうと感じている。

また、今後の分析では、全体の傾向だけでなく、生活に困難を抱えている、生きづらさを感じている子どもたちの集団にどのような特徴があるのかというところを見た上で、どのようなことができるかを考えていきたい。

#### 【委員】

私が思ったのが、「学校にいる時間が楽しいですか」という質問について、皆さん結構楽しんでいる。「楽しい」、「どちらといえば楽しい」というと、もう90%近く行っているので、やはり子どもにとって学校というのは基本的に楽しい場所だなと思って安心している。ぜひこういう形で進んでいけばいいのかなと思う。

#### 【会長】

子どもは率直に回答したのかもしれないが、そのとおりでらう。100%になると一番いいのだが。

新型コロナの影響がどういう形で出てくるだろうかということも非常に關心があるところかと思うし、市としても、そこのところをどういうふうにこれからフォローしていくか、施策として生かせる部分を見いださなくてはいけない部分でもあるかと思う。

私も調査をよくやるが、学校を通しての調査だったということで、回答率が90%を超えているというのは非常に驚きである。人数が5,000という中で9

5%というのは、信頼性のある調査だろうと思う。我々が調査するときは60%をめぐりながら考えるのが普通なのだが、それを大きく上回っている。丁寧に分析をしていただき、市民や協力していただいた方にお示しするという大きな役割だと思われ、四日市市民としてこれをどう捉えていくか、それをどうこれから行政に生かしていくかという課題が突きつけられていることも事実なので、次に一歩進めるような形で生かして行ってほしい。

クロス集計も含めて結果が出てくると、また意見もあるかと思う。貧困を前面に出すと調査が非常にしづらい部分があるが、その辺りは随分配慮されており、貧困という言葉が最小限に抑えられているなどというのは分かる。報告書を書く場合でも、あまりそういったところにとらわれなくて、経済的な、とか、何かそういう理由でまとめられていくと、読み手のほうも分かりやすいかなというように思っている。

#### 【委員】

コロナ禍になって、こども未来課やこども家庭課等で、例えばパントリーとか、いろんな支援活動をしていただいている。その中で、情報提供が難しく、救いたい子どもたちを救えなかったという現状があるのではないかと思うが、パントリーをしたとか、生活困窮家庭への活動をした中で何かご意見というか、こんなことがあったというようなことを少し聞きたいと思う。

#### 【事務局】

今年度本市において、新型コロナ・子ども緊急支援プロジェクト補助事業を創設し、パントリーや子ども食堂に対して、採択された団体に補助金を給付させていただいている。それぞれの活動を拝見させていただいているが、やはり地域の目が大切だと感じており、一例だが民生委員さんや自治会さんと協力して行うことで必要な支援を届けられたという声を聞いたところがあった。

#### 【委員】

私も地元で協力していたので、情報は大切にしながら伝えているが、うまく伝わらなかったというところも聞くので発言した。すごくありがたかった、年末の年越しそばは涙が出るぐらいうれしかったなど、受け取った側から聞いているので、その喜びというのでもPRして行って、もらってもいいんだと伝えることが必要なのかなと思った。

#### 【委員】

全体的話として発言させていただく。少し企業的な発想になってしまうのかもしれないが、まず保育士が足りないという件について、私が委員に就任して3年以上

経つが、少しずつ状況は変わっているとは思うものの、基本的には保育士が足りないという状況は変わらない。それぞれの発言を聞いていると、足りない、増やさないといけないという目的意識は共通でも、公立、私立、保育園、幼稚園とそれぞれ立ち位置が違って、そこからの共有というのがうまくいっていないのかなと思う。

自分の会社も分析という業界なので専門職であり、ある程度知識や経験がないと仕事ができず、その人材を確保していくというのもやはり大変である。ただ、この業界は比較的同じような仕事をしている人が結構いる。今までは競合関係ということで手を結ぶことは難しかったが、今回コロナのこともあったので、そういった垣根を取りはらい、やれることはどんどんやってみよう、そうしないと生き残っていきませんよねというようにやっている。うちではできませんが、おたくはできますかといって、できますといったら、そちらへ仕事をお願いする。逆に、うちはできるけど、おたくができないのだったらやりますよ、といった形で交流がかなり活発になってきた。

これはコロナのことも大きかったが、やはり問題意識を共有して、垣根を取り払い、同じ土台に立ってぶっちゃけ話をして、知恵をお互いに出し合うというのは、これはもう今の世の中で絶対必要かなと思っている。

保育士さんが足りないというのは、前々から課題があって、それぞれの立ち位置で少しずつ歩調が合わないところがあるかなと思って見ているので、そこを何とか市で主導していただいて、もう少し腹を割った話ができたら、また変わるんじゃないかなというふうに思っているし、逆にそうしないと、いくらお金を増やすとかいう話をして、恐らくずっと変わらないかなと思っている。

先ほど発言があったように、最終的にはやりがいが必要だということに、私も全く同感である。仕事をやっていく以上、収入も大事だが、その先にあるやりがいとか、それから、私たちの基本方針として、長くやりがいを持って働き続けられる職場を実現するということが大前提になっている。うちの職員には毎年満足調査をやっており、その中で提案をどんどん出してもらっており、それを少しでも実現する形でやりがいにつなげていく、最後はそこかなというふうに思っている。

子育てとかに携わっている方というのは、本当に意識が高いと思う。すごく意識が高く、志も高い方がいっぱいいると思うので、そこをうまく実現してあげるようなものを一緒にやれると、もっともっと成り手も増えるんじゃないかなと思うし、続く人もいっぱい増えてくるんじゃないかと思っている。

#### 【会長】

まさにそのとおりだろう。1つのヒントとして、非常に貴重なご意見だと思う。

以上